

リハビリ専門学生における心肺蘇生法に関する意識調査

作業療法士学科夜間部

【はじめに】

日本 AED 財団によると年間心臓突然死による死亡者数は約 7 万人との報告がある¹⁾ リハビリ中に心停止に陥る患者がいることも確認されている。²⁾ このことから、学生の頃から一次救命における心肺蘇生法の知識を学ぶこと意識することは臨床に出た際の緊急時に出くわしたときに冷静な判断、適切な処置を行う事が出来るのではないかと考える。その為、作業療法士学科学生 (以下, OTS) 理学療法士学科学生 (以下, PTS) 言語聴覚士学科 (以下, STS) に心肺蘇生法に関してどのように感じているか、意識調査にて明らかにすることを目的として本研究を行った。

【対象と方法】

大阪医療福祉専門学校の OTS 昼間部の 1 年から 3 年, 夜間部の 1 年から 4 年の計 173 名と PTS 昼間部 1 年から 3 年, 夜間部 1 年から 4 年の計 234 名と STS 33 名, 合計 440 名に紙面による意識調査を行った。倫理的配慮については研究の目的・方法を口頭で説明し回収をもって同意とみなした。

【結果】

今回の結果として図 1 に示す。これから心肺蘇生法を学ぶことで自信を持って行う事ができる人が 29%, 自信がない人が 40%, 行えるが怖いと答えた人が 10%, わからないと答えたひとが 6%であった。その中で、どのくらい講習を受けると自信を持つことができるかの回答では、1 回 2%, 2 回 7%, 3 回 22%, 4 回 5%, 5 回以上 49%との回答結果になった。

これから心肺蘇生法を学ぶことで どのくらい講習を受けると
自信をもって行うことが出来ますか? 自信を持つことが出来ますか?

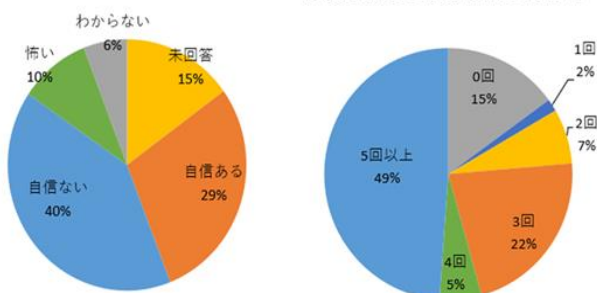


図 1 アンケート回答結果

【考察】

志水らによると 3 回以上の講習を受けたものは一次救命処置に自信を持てるようになる³⁾ という報告がある。また Wenzel らによると心肺蘇生を受けた医学生であっても半年後まで技能を維持することが出来たものは 5%に過ぎなかった⁴⁾ という報告があった。今回の調査結果では心肺蘇生法を学んだ事のある回数が 2 回以下の回答が全体の 50%以上であったこと、心肺蘇生法を 5 回以上学ぶことで自信を持つことが出来ると答えた学生は 50%以上であった。これらのことから、学生の頃から定期的な講習を受けることで心肺蘇生法の知識や技術の能力の向上が現れ自信に繋がるのではないかと考えた。その為には、心肺蘇生法を定期的に学ぶ事が出来るように授業として取り入れる必要があると考えられる。

【まとめ】

今回の調査では、最後に講習を受けた時からアンケート実施の期間までを明確にすることで、技能の維持が出来ているかどうかを知る事が出来たと考える。そして、人形を使用しての心肺蘇生の実技を行ってもらうことで、今回明らかに出来なかった技術面を問うことが出来たのではないかと感じた。

【文献】

- 1) 日本 AED 財団 (internet) : <http://www.aed-zaidan.jp/>
- 2) 柴田健治・他 : 当院(急性期総合病院)における理学療法士の急変の現状と対策. 第 51 回日本理学療法学会抄録. 43(2), 2016.
- 3) 志水孝之・他 : 臨床検査科での基本的な心肺蘇生講習の継続開催を試みて. 日本農村医学会雑誌 55(3), 2006, 425.
- 4) 佐野奈緒美 : 病院内看護師による一次救命処置(BLS)の現状と課題. 日本循環器看護学会誌 3, 2007, 67-72.
- 5) Wenzel V. Et al : Poor correlation of mouth-to-mouth ventilation skills after basic life support training and 6 months later. RESUSCITATION35. 1997, 129-134.